

言葉の重み

「長中体育祭」と「雄勝中復興輪太鼓」

体育祭が近づいてきました。皆さんの活気ある姿や歓声、とてもうれしく思います。今年の体育祭も皆さんにとって、思い出深く楽しい行事であることを願っています。

さて、先日の佐藤先生の防災講話の感想文を読ませていただきました。皆さんの感性を頼もしく思いました。それぞれ個別に感じた事を大切にしてほしいと思います。

先日「校長室から」の裏面で、当時雄勝中の生徒だった伊藤美波さんの資料を掲載しました。何度も読みながら、皆さんの体育祭を成功させようとする姿と重なります。

学校に戻った美波さんは、仲間と一緒に復興輪太鼓に一生懸命に取り組みました。そして、練習の中で互いに厳しいやり取りがあったようです。しかし、その中で交わされる言葉のやり取りは、時にはきつく感じたけれど、人をけなすのではなく、互いに協力し、一つの事を成功させようとするしっかりとした目的のある言葉のやり取りでした。

私たちの生活でも何か一生懸命に取り組んでいる時、それを成功させるために、人に厳しくしたり、逆に丁寧に説明したり、互いに苦しくなるような言葉の交換があります。でもそれは、互いに目的が一緒であるために、時間が経過すればするほど分かり合える事も多くあります。

長中の体育祭を成功させようと、一生懸命に下級生に指導する3年生。各学年の担当の生徒達も一生懸命に声掛けしています。その言葉や思いが伝わって、これまでもすばらしい体育祭として引き継がれてきました。同年代の生徒が同じ学校の生徒達に厳しく声掛けしたり、指導したり、注意するのはとても勇気がいることです。それでも、その姿勢を見ながら、下級生が「先輩のように自分も来年頑張りたい。」と思ってくれたなら、3年生もうれしいと思いますし、そのように伝統が引き継がれてきました。そしてTシャツづくりに取り組む皆さんの真剣な表情もすばらしいと思います。

長町中の生徒と教職員全体で準備を進めている体育祭。一生懸命に取り組む姿勢は雄勝中も長町中も状況は大きく違いますが、目的を一つに取り組んでいるという意味においては、一緒です。

平成30年度の体育祭が皆さんにとってすばらしい行事になるよう、言葉も心も大切にしながら取り組みましょう。

【伊藤美波さんの文章の一部を再掲載してみました。皆さんの感性で読み取ってください。なお、下線部は、私が印象に残った部分です。】

雄勝中学校は、震災後、全校で立ち上がろうとタイヤで作った太鼓に取り組みました。多くの偶然と、知り合った沢山の人の輪によって、ドイツや韓国での演奏も経験しました。練習で交わされる言葉は、時にはきついものがありましたが、人をけなすのではなく、言われた人も納得する、目的がしっかりした意味ある言葉でした。私は、みんなで作り上げた曲を演奏するたびに、大きな喜びを感じました。きっかけは最悪でしたが帰って来られたことには感謝する気持ちが強く、今は怒りがなくなりました。

私に浴びせられた言葉。言葉はすぐに消えてしまいますが、心の傷は消えません。もしかしたら深い意味はなかったのかもしれませんが、私には家族まで巻き込んだ重大な一言になりました。言葉によって傷つき、言葉によって助けられた私。一言の重みを十分すぎるほど感じました。私はこの先、言葉と心を大切に、人を支えられる人間になるよう生きていきたいと思います。